

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成28年5月9日(月)～16日(月)

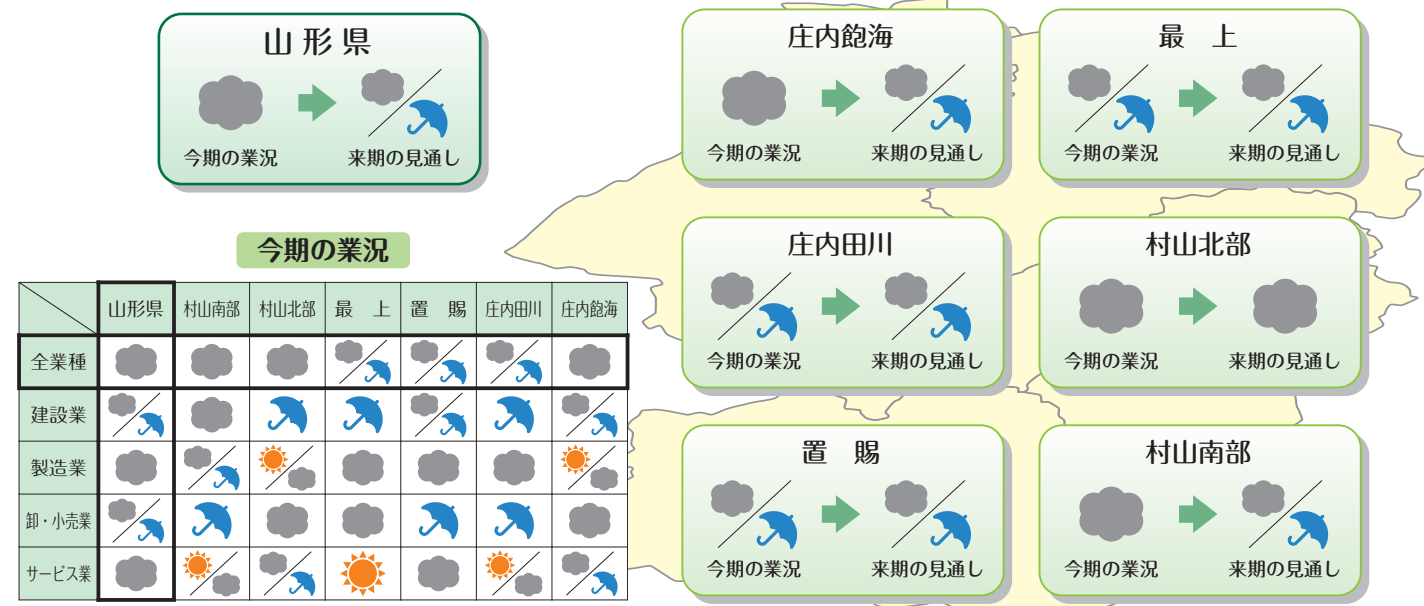
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形693社、秋田639社
有効回答数 山形451社、秋田442社
回答率 山形65.1%、秋田69.2%

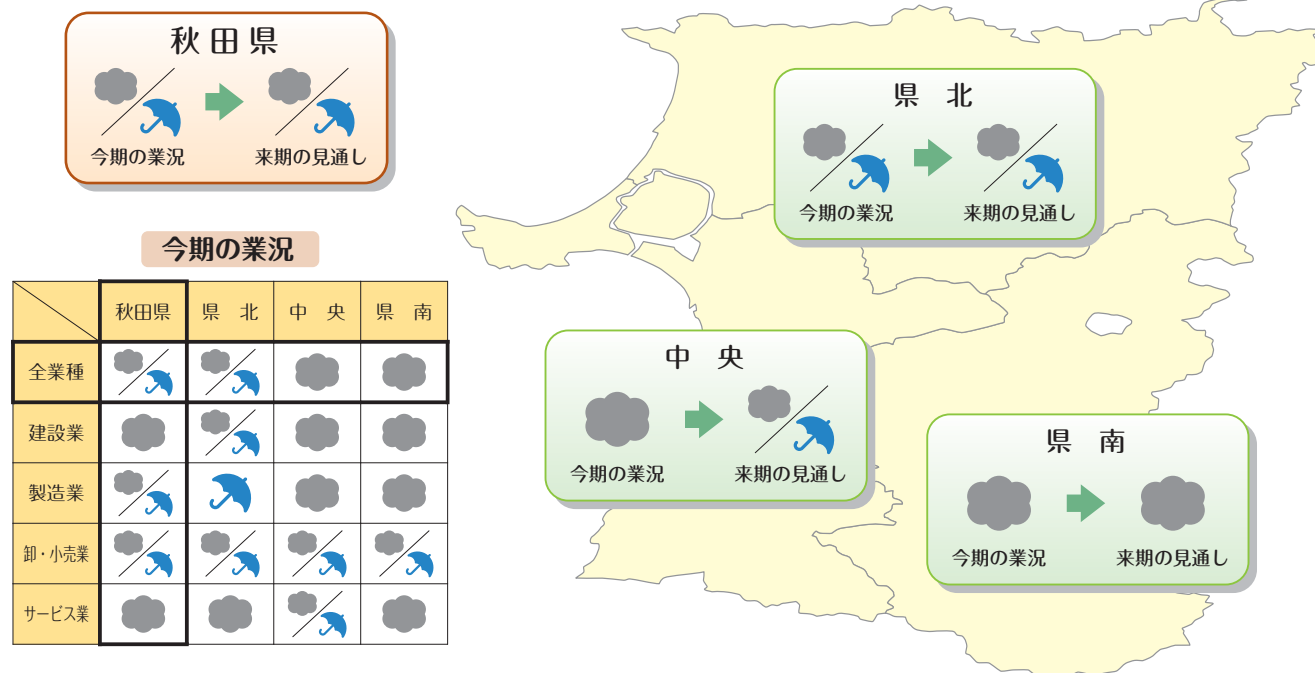
特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI≥30	30>DI≥10	10>DI≥▲10	▲10>DI≥▲30	▲30>DI

景気天気図

第47回「山形県内企業の景気動向調査」



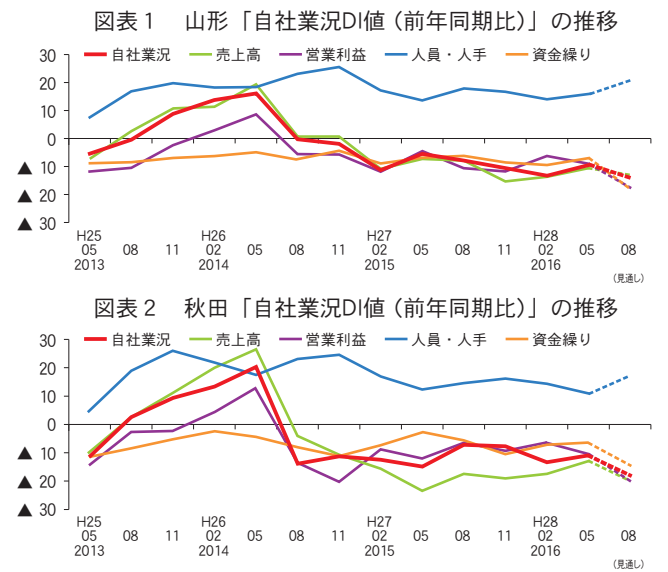
第20回「秋田県内企業の景気動向調査」



▶ 自社業況の動向

山形県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲9.6(前回調査比3.5ポイント上昇)と4期ぶりに若干改善した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「売上高」「人員・人手」「資金繰り」が改善となったが、「営業利益」は悪化している。なお、先行き見通しは「自社の業況DI値」が▲14.0と悪化の見込みとなっている。

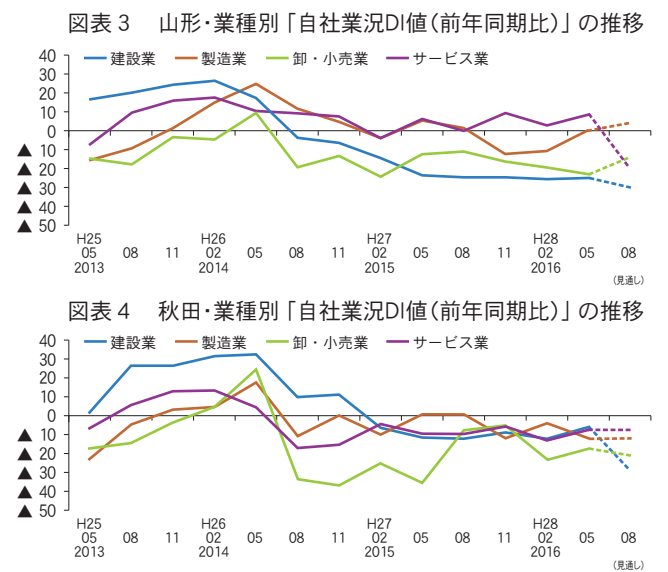
秋田県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲11.0(前回調査比2.4ポイント上昇)と小幅ながら3期ぶりに改善した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「営業利益」と「人員・人手」が悪化した一方、「売上高」と「資金繰り」はともに2期連続の改善となった。なお、先行き見通しは「自社の業況DI値」が▲17.9と悪化の見込みとなっている。



▶ 業種別の動向

山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、卸・小売業で3期連続の悪化となったものの、建設業ではほぼ横ばい、製造業とサービス業で改善となっている。製造業では、円高傾向により、食品関連など原材料を輸入している企業の業況改善などが要因と考えられる。

秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業、卸・小売業、サービス業で改善した一方、製造業は▲12.2(前回調査比8.2ポイント下落)と悪化した。建設業は他業種に比べて改善幅が大きいが、足元の公共工事や住宅着工の増加などが要因と考えられる。



▶ 地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると、村山南部と村山北部ではほぼ横ばいとなり、最上、庄内田川および庄内飽海で改善、置賜で悪化となった。

秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、中央と県南が改善した一方、県北は悪化となった。

